

# 有明山表参道

2014.11.5 (水) 快晴 Mさんと

自宅 6:30～有明山松川（馬羅尾）ルート（裏参道）登山口Pに1台デポ  
～7:10 有明山行者道（表参道）登山口P 7:20～9:00 妙見滝 9:05  
～9:35 白河滝 9:50～10:40 トラバース開始地点 10:45～11:15 落  
合（昼）  
合（昼）11:50～13:00 取り付き点（沢へ出る）13:05～14:45 松川裏  
参道登山口P 14:50～（車回収に）15:15 行者道（表参道）登山口P  
15:20～15:40 帰宅

表参道（行者道）登山口



黒川沢沿いに歩きます



日本二百名山で、我が松川村のシンボリックな山でもある、有明山（2248M）には松川村からのルート、中房温泉からのルート、そして昔からの黒川沢を遡り、妙見・白河滝を超えて松川ルートと「落合」で合流する「行者道」がありました。行者道は平成5年に滝付近で大規模な崩落があり通行できなくなりました。

ました。以降有明山社の奥社が山頂にあるので、急きょ尾根道（前山経由）が開かれて使われていました。2005年に行者道が再整備されました。私は松川ルート（馬羅尾コースとも言われる）は何回か登りました。勿論中房温泉からも。そして残った尾根道コースを歩く為に毎年行われる有明山社の奥社参拝のイベント登山に参加して歩きました。「行者道」が復活したとのニュースで友人と中房温泉コースで登り、行者道で下る山行をしました。この時行者道の下り口である「落合」で昼食休憩しました。

妙見滝



この大岩を巻くのが水量が多いと難儀



その時に行者道を登って来た登山者がきたので、登山道の様子を聞きました。彼は開口一番「やめろ！」と言いました。理由は「大変な登山道でやっと思いで登ってきたし、連れは遅れてしまい先に登って来た。下るのは危険だ。」とも言いました。

私の同行者は私より高齢で、登山経験も豊富ではない。危ない事は辞めよう、松川ルートで下るか、数年前に歩いた尾根道ルートで下る事にする。どちらにするか？黒川沢の両方のルートの登山口に1台車をデポしてあるので、尾根道ルートで下る事にする。

又滝出現



崩落地通過



行者道が復活したので、数年前から使われなくなったがまだ踏み跡はハッキリしていたので難なく下山できた経緯があります。何故又行者道なのか？理由は行者道は前記の事があったので、当然登山道は「破線区間」だと思っていたのですが、今年昭文社の「山と高原地図 37」（槍ヶ岳・穂高岳）を購入して見ていたら何と「実線」（一般道）で記入されていました。私の「北アルプス全一般登山道制覇」の目標から言っても登るべき対象なのです。登山道の名称も「表参道」「裏参道」と今まで聞いた事の無い名前になっていました。中房温泉から中房川沿いに東沢乗越経由で餓鬼岳・燕岳へのルートは15回ほど歩きましたが何故か「破線」になっていました。登山道もシッカリしているし、危険な

箇所も無いのに何故破線区間なのか理解に苦しみます。同じように涸沢への「パノラマコース」も何と「破線」区間が変わっています。此処も危険箇所は無いと思うのですが。実際涸沢からの下山には大勢の方が利用しています。秋の紅葉の時期に中畠新道で奥又白池へ往復した時などパノラマコースは行列を作ってゾロゾロ歩いていました。前置きが長くなってしまいました。熊の多い所でもあり、ネットで調べた感じでは（ヤマレコへの投稿記事には「死ぬほど怖かった」との記載もあった）単独行向きでは無いと判断し、山の先輩であるMさんに同行してもらった。有明山は何回も登っているし、積雪もありそうなので、未踏区間である「行者道」を歩く事に焦点を当てて落合から松川コースで下山する事にしました。今回のように、登・下山口が違う山行は車が2台あると便利である。朝は0度近くまで冷え込んで車のフロントガラスは凍っていた。登山口付近には「有明山・表参道」の表示が何か所かにあった。松川ルートは裏参道にされてしまったのだ。行者道は黒川沢の右岸沿いに切り開かれていた。（常に沢を右側に見ながら登る）妙見の滝まではゆるやかな登りの道で歩き易い。妙見の滝を過ぎるとすぐにネットに出ていた狭い岩の間の通過となるが水量が少なかったので難なく通過する。この辺からは岩のペンキマークとリボン印を追っての登行となるが要所にあるので迷う事は無い。崩落地の先に白河の滝はあった。虹がかかり、見事な景観である。此処からはとんでも無い急坂が延々と続く。鎖・ハシゴ・ロープの連続である。登山で「急坂」は宿

命とも言えるが、此処の斜度は今までに経験の無いような斜度で、木の根、石楠花の枝、岩などに掴まりながらの両手・両足をフル稼働しての登行となった。石碑・石像・祠などが目につくようになる。重いのに、こんな足場の悪い所まで昔の人は良く担ぎ上げたものだと感心する。その後は熊笹の中のトラバース道となって落合に到着した。途中それほど休憩しなかったが4時間近くかかってしまった。私が遅いせいだ。Mさんは癌の手術をしたとは思えない脚力・体力で驚いた。下山は懐かしい松川・馬羅尾へ。「2011年の大雨で橋が流されたりで荒れているので通行は松川村役場へ問い合わせ」と山地図には書かれているが勝手知ったコースなので気にしない。

白河滝に虹



白河滝で



何しろMさんが中心になって、昔有明山の山頂で「松川響楽太鼓」を演奏する大イベントが企画されて、登山道が大改修して大きな太鼓を担ぎ上げた。ユニ

ークなイベントでテレビ局も同行して特別番組として放映された。大雨以降、3年間村が手入れをしなかったり、登山者も敬遠して中房温泉からの往復が大半になって、歩く人が少なくなった事もあり、沢（取りつき点）までの登山道は熊笹が覆い始めていたりで荒れていて歩きづらい。昔は毎年村が主催で有明山村民登山を企画し、村外からも参加者が多かった。其のために村が村費で毎年登山道の整備をした。しかし参加者の反応があまりにも急な登りが多く「2度と登りたくない山」の評判が多く、又転倒による怪我人も出たりで村も有明山登山を辞めてしまった経緯があります。

祠



大岩くぐり



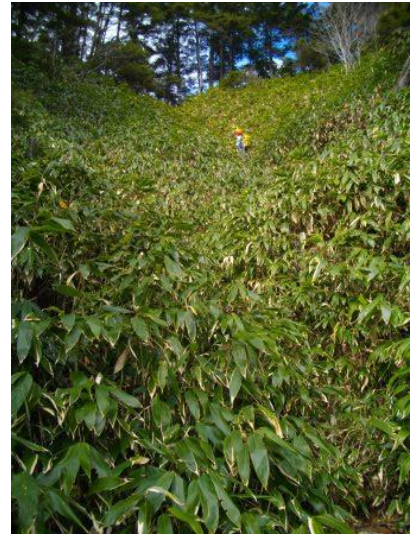
取り付け点からは芦間川沿いに下るが登山口まで良く整備されている。渡渉が何回もあり、橋が全て流されてしまったが、増水時以外支障は無い。雪は行者道は全く無、落合から松川ルートの下りに少しあり、勿論他の登山者には会い

ませんでした。

石碑・石仏



稜線への熊笹の覆う道



落合に到着



松川への裏参道



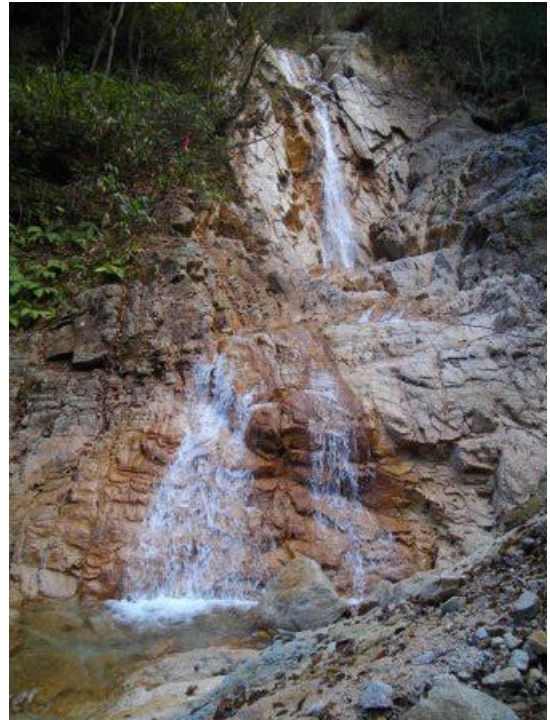
今回は特に山頂を目指した登山では無かったが（最近はこの登山が何故か増えてきました）久しぶりにMさんと同行できたし、とても変化に富んだコースで久しぶりに登山らしい登山ができ、充実した山行になりました。Mさんに感謝します。

取付点到着



橋は流されて無し

不動滝



裏参道登山口に到着



なお行者道は山地図に「経験者・健脚者向き、一部荒れている」と付記されていますが、初心者の単独行以外は問題無いと思いました。下山に利用は急坂等があり不向きです。ただ北アルプスの他の一般登山道と比べた時には同列視（利用者数、白河滝からの急坂、道が細いなど）は？の感じです。心配な方は毎年7月中旬に有明山神社主催の奥社参拝行事に便乗するのが得策です。

赤沼健治